

## 巻頭言『国境を越えよう、軽やかに』代表 河野 眞

一般にはグローバル化と言われて久しいですが、気が付けばリハビリテーションの分野でも国境を越えた活動を展開する機会が増えています。

従来青年海外協力隊が独占してきた感のある国境を越えた活動は、現在、国際協力NGO、開発コンサルタント会社、病院丸ごと輸出に取り組む医療法人、医療ツーリズムの受け入れに積極的な医療法人、海外の医療法人への就職、など多様な形態が珍しくなくなってきました。今後は、EPAや技能実習に関連した活動や留学生の受け入れなどが活発化することも予測され、この分野での国境を越えた活動は一段と多彩かつ重層的になっていくものと思われます。

というよりも、わざわざ国際協力・国境を越えると肩肘張るものでもなく、日々の臨床の中で自然な形で外国や異文化を背景に持つ人々を迎える機会も増えてきているのではないのでしょうか？

一方で、国境を越えたりハビリテーションの提供ということに関しては、協力隊を中心とした数十年の歴史がありながら、体系立てて知見が蓄積・整理されてきたことはありませんでした。そのため、個人個人が国境を越える活動に取り組む際に都度個々の努力と工夫と試行錯誤を凝らしてきた、というのがこの領域の実情です。

この領域の知見を結集し、誰でも活用できる形に整理し、リハビリテーションに関わる全ての人が軽々と国境を越えて活動できる、それが国際リハビリテーション研究会の目標です。

## 特集「国際リハフェス2018～リハ分野の国際協力、半端ないって！～」開催報告



【開催者より】上記イベントを9月7～8日に愛知県で開催しました。企画段階で「どうせなら地元NGOとコラボして国際協力を考える場にしよう！」の声があり、愛知の国際協力NGOであるアジア保健研修所（AHI）と筆者の所属団体、そして国際リハビリテーション研究会の三者が協力したイベントが実現しました。7日はアジアでのCBR/CBIDの活動紹介、8日はAHIで研修中のアジアのNGOワーカーとの交流会を中心に、国際協力NGOの活動を知る時間としました。参加者は両日合わせて37名、うち20名がリハ職以外の人で、中には障害当事者や外国人留学生も。介助や通訳など参加者同士の協力もあり、リハ分野の国際協力で大切な他職

種連携 & 当事者参加をグローバルに考え、実践する場となりました。(一社) Bridges in Public Health 石本馨)

【参加者より】ナイトセミナーでは、3名の講師の先生方から、東ティモール、バングラデシュのスラム、ミャンマー・カレン州でのCBRの活動についてそれぞれご紹介いただきました。講師の先生、モデレーターの先生の貴重なご意見や、会場からの有意義な発言など、活発な議論が展開されました。スタディツアーでは、AHIの事業についてご紹介いただき、40年近くにわたり取り組んでこられた活動の広がりとお深さに感銘を受けました。地域の方によるAHIのイベントの企画場面では、皆さんの生き生きとした姿が印象的でした。研修生との交流イベントでは、ネパールで、特に女性を対象とした権利向上のための活動に取り組んでいる方と、多岐にわたる内容について、真面目な議論ありガールズトークありの、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。(国際リハビリテーション研究会事務局 山口佳小里)



## お知らせ

【ハンセン病コミュニティースタディーツアー～日本の政策医療から考える国際協力～】

2019年1月10日(木)～13日(日)の4日間、沖縄県名護市の国立療養所沖縄愛楽園で開催します。青年海外協力隊の活動や日本の医療の歴史について知りたい方など、是非ご参加ください。連絡先：独立行政法人国立病院機構別府医療センターリハビリテーション科 広田美江 TEL:0977-67-1111(代)

【国際リハビリテーション研究会第2回学術大会  
～国境を越えるリハビリテーション～】

2018年11月24日(土)、東京都の聖心女子大学4号館聖心グローバルプラザにて開催します。ご参加をお待ちしております。



学会HP



スタディツアー情報/申込



## コラム 大室和也の「せかいのめがね」

事務局担当の大室理事はハンガリーを拠点に世界中で活動を展開中です。このコラムではそんな大室理事のメガネを通じた世界の姿を毎月お届けします。



©AAR Japan

メヘバ元難民再定住地内の井戸。ここではハンドポンプ式井戸が一般的。スロープなどがついた「障がいインクルーシブな井戸」はまだ確認していません。

みなさんは「井戸」についてどのくらい馴染みがあるでしょうか。私にとっては、かの有名なテレビゲームで宝箱を探しに入っていくものであり、一世風靡したあのホラー映画で女の子が這い上がってくるもの、でした。▼今年の9月、ザンビア共和国のメヘバ元難民再定住地に来て一転。ここでは井戸は生活に欠かせないもの。2、3日に1度は井戸に行き(いや、正直に言うとうち行ってもらっているのですが)、大量の水を汲む生活です。食事に水、洗濯に水、お風呂に水。私1人の生活でも、3日で60Lのバケツはすっかり空になります。▼この井戸が枯れてしまったらどんな暮らしになるか!井戸に感謝、水に感謝の毎日です。▼所変われば品変わる、というような簡単な話ではないのですけれども。

【研究会FaceBook】 <https://www.facebook.com/pages/category/Nonprofit-Organization/> 国際リハビリテーション研究会-1951070205159667/

【お問い合わせ】 国際リハビリテーション研究会事務局 [jsir.office@gmail.com](mailto:jsir.office@gmail.com)

